

(1)事業名称等



- 【事業名称】 条件不利地における尾道スタイルの「茶園別荘建築」活用プロジェクト
- 【実施団体】 特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト
- 【事業経費】 1,690,000円



NPO 法人 尾道 空き家 再生 プロジェクト

(2) 事業の目的

現状

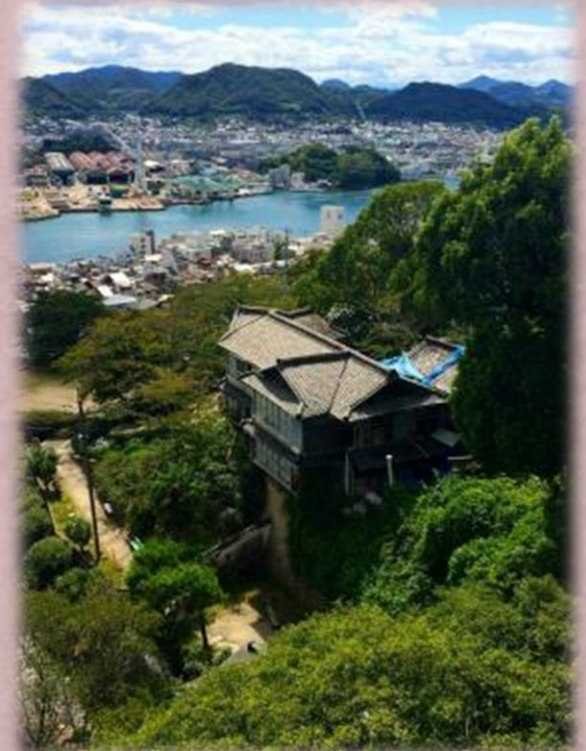
坂の町の小規模の空き家は同団体による「尾道市空き家バンク」や移住定住支援の「尾道空き家再生サポートメニュー」などの活動を通じて、この8年間で再生活用の一定の成果を上げており、全国からも注目を集めている

課題

- 1、未活用のまま多く残されている元旅館や元病院、町屋、蔵、茶園など大型の空き家や文化財級の空き家の活用
- 2、失われた技術者や担い手の育成と車の入らない条件不利地での独特の作業体制や資金面、歴史文化など行政や他団体などとの協働体制

目的

坂の町の木造密集地という条件不利地における職人とNPO等の地域団体の連携による文化財の再生活用の体制づくり



(3) 事業活動の内容

1、尾道の茶園文化の研究と別荘建築のリストアップ

- ・文献や古写真などの資料収集し茶園の定義や種類などを研究
- ・歴史に詳しい重鎮3名への茶園に関するインタビュー
- ・地元に詳しい元牛乳配達屋さんによる茶園まち歩き
- ・尾道の考古学に詳しい大学教員による茶園講習会



2、現存する別荘建築の建物調査

- ・現存している別荘建築6軒の実測、破損状況調査
- ・別荘建築6軒の所有者ヒアリング調査



3、未活用の別荘建築の再生活用プランの検討

- ・未活用の大型別荘建築3軒の活用プランや資金計画を検討

4、条件不利地における尾道スタイルの再生活用体制の確立

5、文化財建造物修理に関するワークショップの開催



(4) 事業の成果

新たな茶園の
発掘



◀ワークショップ
による文化財
への理解



次世代の

▶
担い手の育成



◀関係団体・地域との
協力体制の強化

クラウドや行政による資金援助



研究資料の
展示・発信



ボランティア
育成



若者

地元小学生



(5) 事業実施後の課題

地元建設業者や不動産屋、所有者の意識改革

文化的活動をしている地元団体や志のある移住者には日本遺産になった尾道の箱庭的景観や古い建物に対する理解が深いですが、**当事者である所有者や関係業者の意識がまだ低く、歴史的建物を安易に放置したり解体したりする**

文化財再生の需要拡大と次世代の技術者の育成

トラックや重機の入らない斜面や路地裏の条件不利地の建物を扱う業者は地元には少なく、志のある小さな工務店や個人の職人さんが挑んでくれている状況なので、**今後は歴史的建物再生の需要を増やしていき、その若い担い手の育成強化の必要**がある

条件不利地の文化財の再生活用に必要な体制づくり

条件不利地での文化財工事は職人さんだけでは困難で、搬出や搬入、時間のかかる単純作業等を手助けするアシスタントやボランティアの力が不可欠である
また、大型や文化財級の建物の活用も個人単位では難しく、**事業化して活用し維持管理していく「仕組み」から考える必要**があり、工賃が高くつく条件不利地では**資金面も行政支援や寄付金、基金づくりなど工夫する必要性**が高い

(6) 今後の展開



登録文化財
みはらし亭
ゲストハウス活用
身近な文化財
茶園文化の発信
文学の町の拠点



西日本一長い蔵
啓文社本店
理想の本屋構想
地元企業との連携
行政支援
寄付金集め
ワークショップ開催



登録文化財
旧和泉家別邸
宿泊施設構想
技術者育成
ボランティア育成
行政支援
寄付金集め



50畳の大広間
松翠園離れ
貸しスペース構想
技術者育成
ボランティア育成
夏合宿開催
地元企業から寄付